

21. 4. 2005

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 4 年 4 月 2 7 日
Date of Application:

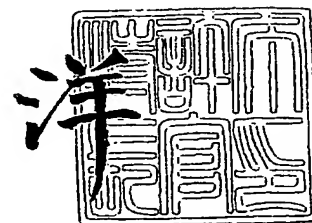
出 願 番 号 特 願 2 0 0 4 - 1 3 1 8 9 1
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 4 - 1 3 1 8 9 1]

出 願 人 ソニー株式会社
Applicant(s):

2 0 0 5 年 2 月 1 4 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



出証番号 出証特 2 0 0 5 - 3 0 0 9 9 5 6

【書類名】 特許願
【整理番号】 0490368901
【提出日】 平成16年 4月27日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 H04R 1/10
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社内
 【氏名】 伊藤 智広
【特許出願人】
 【識別番号】 000002185
 【氏名又は名称】 ソニー株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100122884
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 角田 芳末
 【電話番号】 03-3343-5821
 【連絡先】 担当
【選任した代理人】
 【識別番号】 100113516
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 磯山 弘信
 【電話番号】 03-3343-5821
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 176420
 【納付金額】 16,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 0206460

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

電気-音響変換素子を内蔵したハウジングと、
一端が前記電気-音響変換素子に接続された入力コードと、
前記ハウジングに内蔵され前記入力コードを前記ハウジング内部に巻き取るように付勢した巻き取り手段と、
前記巻き取り手段と連動し前記巻き取り手段の前記入力コードの巻き取りを阻止すると共に前記入力コードの前記ハウジングからの引き出しを許容するラチェット手段と、
前記ラチェット手段の入力コードの巻き取り阻止を解除する解除手段と、
前記ハウジングを耳掛けする耳掛アームが前記ハウジング側に付勢された耳掛け手段とを有し、
前記耳掛アームが前記ハウジングから離れたときに、前記ラチェット手段の前記入力コードの巻き取り阻止を解除しないようにしたことを特徴とするコード巻き取り装置付きヘッドホン。

【書類名】明細書

【発明の名称】コード巻き取り装置付きヘッドホン

【技術分野】

【0001】

本発明は、例えば携帯用音響機器に使用する耳掛けタイプのヘッドホン、このヘッドホンにマイクロホンを設けた所謂ヘッドセットに適用して好適なコード巻き取り装置付きヘッドホンに関する。

【背景技術】

【0002】

近年、携帯用音響機器等の発達に伴いヘッドホンが屋外でも多く用いられるようになった。このヘッドホンを携帯する場合、入力コードの絡み等が問題となる。

【0003】

そこで、従来このヘッドホンの入力コードをヘッドホンのハウジング内に巻き取る機構を設けたコード巻き取り装置付きヘッドホンが提案されている。このコード巻き取り装置付きヘッドホンの入力コードの巻き取り機構は、ヘッドホンハウジング内に設け、入力コードをこのハウジング内に巻き取るようにぜんまいばねにより付勢した巻き取り手段と、この巻き取り手段と連動し、この巻き取り手段のこの入力コードの巻き取りを阻止すると共にこの入力コードのこのハウジングからの引き出しを許容するラチェット手段と、このラチェット手段の入力コードの巻き取り阻止を解除する解除手段とより構成され、このラチェット手段により、この入力コードを引き出した際にこの入力コードを引き出した所までの所望位置で止められると共に、解除手段を操作してこのラチェット手段の入力コードの巻き取り阻止を解除したときは操作終了又は入力コードの最後まで巻き取ることができるようになっていた。

【0004】

ところで、このコード巻き取り装置付きヘッドホンを耳に装着したまま、ハウジング内に巻き取ろうとして、この解除手段を操作して巻き取り阻止を解除したときに、巻き取り手段の巻取りの勢いが強いと、コードが鞭のように頬を叩いたり、末端の入力プラグが引き込まれるときに勢い余って入力プラグが顔や目に当たり傷をするおそれがあった。

【0005】

そこで、従来特許文献1に記載の如き、入力コードの入力プラグをハウジング内の巻き取り手段に関連して設けた挿入口に挿入したときに、巻き取り阻止を解除するようにし、不用意には巻き取り阻止が解除されないものが提案されている。

【特許文献1】特開2002-10385号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

然しながら、この特許文献1のものでは、入力コードを巻き取るごとにわざわざ音響機器等より入力プラグを抜き取り、これをヘッドホンハウジングの挿入口に挿入する必要がある、実使用上、この入力コードの巻き取りは使用後に行うだけではなく、引き出し過ぎたときや、通勤、通学時の電車等の乗り降り時にわずかに触れただけで引き出されてしまうため、その度にこの入力プラグを音響機器等より引き抜き、このハウジングの挿入口に挿入するのは操作が煩雑である不都合があった。

【0007】

また従来は一方の手でヘッドホンを、他方の手もヘッドホンすぐ横でプラグを持っていることを強要されるため、手が塞がることになり、U字を描いて勢いよく巻き取られるコードに対し抑える術が無く、使用者に不安感を与えるものであった。

【0008】

本発明は斯る点に鑑み、煩雑な操作を必要とすることなく不用意な巻き取りが行われることを防止することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本発明コード巻き取り装置付きヘッドホンは、電気-音響変換素子を内蔵したハウジングと、一端がこの電気-音響変換素子に接続された入力コードと、このハウジングに内蔵されこの入力コードをこのハウジング内部に巻き取るように付勢した巻き取り手段と、この巻き取り手段と連動しこの巻き取り手段のこの入力コードの巻き取りを阻止すると共にこの入力コードのこのハウジングからの引き出しを許容するラチェット手段と、このラチェット手段の入力コードの巻き取り阻止を解除する解除手段と、このハウジングを耳掛けする耳掛アームがこのハウジング側に付勢された耳掛け手段とを有し、この耳掛アームがこのハウジングから離れたときに、このラチェット手段のこの入力コードの巻き取り阻止を解除しないようにしたものである。

【発明の効果】

【0010】

本発明によれば、耳掛アームがハウジングから離れたときにラチェット手段の入力コードの巻き取り阻止を解除しないようにしたので、例えばこのイヤホンを耳に付けているときには不用意な巻き取りが行われず顔や目に傷をつけることはない。

【0011】

この巻き取り阻止を解除しないようにするのにこのイヤホンを耳に掛けるだけで良く、また巻き取り阻止を解除できるようにするのに耳からはずすだけで良く使い勝手が良い。また巻き取る際に、長く引き出されたプラグやコードに手を添えながら巻き取ることができるため、巻き取りの速度を利用者が好みに調整して、安心感のある巻き取りができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

以下図面を参照して、本発明コード巻き取り装置付きヘッドホンを実施するための最良の形態の例につき説明する。

【0013】

まず、図4および図5を参照して耳掛けタイプのコード巻き取り装置付きヘッドホンの概要につき説明する。

【0014】

図4は、この耳掛けタイプのコード巻き取り装置付きヘッドホンの後部ハウジング2側より見た外観図で、7は軸支された回動円盤5に一端が固定された耳掛アームを示し、耳掛アーム7は前部ハウジング1側に付勢ばねにより付勢されており、耳に掛けない非使用時はこの前部ハウジング1と耳掛アーム7との開きの角度が最小の状態にある。

【0015】

この耳掛アーム7を耳に掛けたときは回動円盤5の回動により耳掛アーム7を前部ハウジング1に対して耳の厚さだけ開いて固定される如くなされている。

【0016】

この耳掛けタイプのコード巻き取り装置付きヘッドホンは図5に示す如く、前部ハウジング1と後部ハウジング2とでハウジングを構成し、前部ハウジング1には電気-音響変換素子であるスピーカユニット3が取り付けられ前部ハウジング1のスピーカユニット3の前面にはスピーカユニット3から発生する音圧を放射する音孔1aが設けられている。前部ハウジング1の前面は耳に当接するので、例えば気泡が連続するように形成した発泡ポリウレタンや布等の音を透過させながら肌に優しい材料でできたイヤパッド4を設けている。

【0017】

図5において、9は一端に音響機器に接続される入力プラグ9aが接続された入力コードを示し、この入力コード9の他端をスピーカユニット3に電氣的に接続する。

【0018】

また前部ハウジング1に基板12が固定され、この基板12の中心に回転軸13の一端がかしめられて固定され、この回転軸13にはリール14が回転自在に装着され、リール14及び回転軸13に一端及び他端が固定されたぜんまいばね15がリール14の凹部1

4 a に納められる。

【0019】

このぜんまいばね 15 は押え板 16 によって飛び出さないように押えられ、回転軸 12 の他端で押え板 16 の上から E リング 13 a で抜け止めがなされている。上述により入力コード 9 の巻き取り手段が構成され、入力コード 9 をぜんまいばね 15 の付勢によりリール 14 に巻き取る如くなされている。

【0020】

またリール 14 の両側のフランジの一方を薄い金属板より成る爪車 20 とし（図 1 参照）、この爪車 20 に図 1 に示す如く、この爪車 20 の全周を整数等分例えば 4 等分して例えば 4 個の切り込みより成るロック用爪部 20 a を設ける。

【0021】

また図 1、図 2、図 3 に示す如く、軸 21 に回動自在に軸支された薄い金属板より成る回動アーム 22 の一端に爪車 20 のロック用爪部 20 a に係合する係合用爪 22 a を設ける。本例においてはこの係合用爪 22 a は回動アーム 22 の一端を L 字状に曲折して形成する。この場合、図 1 に示す如くこの爪車 20 と回動アーム 22 とは前後方向で互いに重なり合う如く配される。

【0022】

この回動アーム 22 の一端の係合用爪 22 a は爪車 20 のロック用爪部 20 a に押圧係合するように一端をこの回動アーム 22 に他端をハウジング 1 にかけて付勢ばね 23 で回動アーム 22 の一端の係合用爪 22 a が矢印 R 2 方向即ち爪車 20 方向に付勢する。

【0023】

この爪車 20 のロック用爪部 20 a と回動アーム 22 の一端の係合用爪 22 a との関係は入力コード 9 を引き出す方向即ち爪車 20 が矢印 R 3 方向に回転したときには、係合用爪 22 a はロック用爪部 20 a とは係合しない緩斜面側を進行する如くし、このロック用爪部 20 a とは係合することなく、この入力コード 9 をぜんまいばね 15 の付勢力より大きな力を掛けることによりハウジング 1、2 より引き出すことができる（引き出しを許容する）。

【0024】

また、入力コード 9 を巻き取る方向即ち爪車 20 が矢印 R 1 方向に回転したときには係合用爪 22 a は爪車 20 のロック用爪部 20 a と係合してロックされ、この入力コード 9 の巻き取りを阻止する。

【0025】

この爪車 20 のロック用爪部 20 a と回動アーム 22 の一端の係合用爪 22 a とで所謂ラチェット手段（機構）を構成する。

【0026】

本例においては、この回動アーム 22 の他端にこのラチェット手段の入力コード 9 の巻き取り阻止を解除する解除片 22 b を設け、この解除片 22 b が付勢ばね 23 の付勢力に抗して押されたときには、爪車 20 のロック用爪部 20 a と回動アーム 22 の一端の係合用爪 22 a との係合が解除され、ぜんまいばね 15 の付勢力により、この入力コード 9 がヘッドホンのハウジング 1、2 内に巻き取られる。

【0027】

本例においては、この解除片 22 b 上に解除規制発条板 24 を設ける。この解除規制発条板 24 は、耳掛レバー 7 の開きに応じて回動する回動円盤 5 とこの解除片 22 b を挟んだ反対側を固定し、この回動円盤 5 側を遊端とし、この回動円盤 5 と当接する如くする。

【0028】

また本例においては、この耳掛レバー 7 の開きの角度が最小の位置のこの解除規制発条板 24 の遊端と回動円盤 5 とが当接する、この回動円盤 5 の位置にこの解除規制発条板 24 が挿入できる大きさの所定長さの溝 5 a を形成する。

【0029】

また本例においては、この解除規制発条板 24 上にこの解除規制発条板 24 と関連して

押圧可動できる如く解除ボタン 25 を設ける。

【0030】

この場合、耳掛レバー 7 の開きの角度が最小即ち非使用時に解除ボタン 25 を押したときは図 2 に示す如く解除規制発条板 24 の遊端が回動円盤 5 の溝 5 a に係合して挿入され、この解除ボタン 25 を挿すことができ、この解除ボタン 25 を押すことができたときは、解除片 22 b も押され、ラチェット手段の入力コード 9 の巻き取り阻止を解除することができる。

【0031】

また、この耳掛レバー 7 の開きの角度を最小より大として耳に掛けて使用したときに解除ボタン 25 を押したときは、図 3 に示す如く解除規制発条板 24 の遊端が回動円盤 5 の外周に当接し、この解除規制発条板 24 により解除ボタン 25 を押すことができず、ラチェット手段の入力コード 9 の巻き取り阻止を解除することはできない。

【0032】

本例によるコード巻き取り装置付きヘッドホンは上述の如く構成されているので、ヘッドホンの非使用時に耳掛レバー 7 の開きの角度が最小のときに解除ボタン 25 を押したときは解除片 22 b が押され、爪車 20 のロック用爪部 20 a と回動アーム 22 の一端の係合用爪 22 a との係合が解除され、ぜんまいばね 15 の付勢力によりこの入力コード 9 をヘッドホンのハウジング 1, 2 内に巻き取ることができる。

【0033】

また、入力コード 9 をヘッドホンのハウジング 1, 2 より引き出すときには、この入力コード 9 をぜんまいばね 15 の付勢力より大きな力を掛けて引き出す。このときは爪車 20 が矢印 R 3 方向に回転し、ロック用爪部 20 a は係合用爪 22 a とは係合しない緩斜面側が当接することとなり、ロック用爪部 20 a は係合用爪 22 a とは係合せず、この入力コード 9 を引き出すことができる。

【0034】

この入力コード 9 を引き出す力を所望位置でかけなくしたときには、この爪車 20 は、ぜんまいばね 15 の付勢力により矢印 R 1 方向に回転し、係合用爪 22 a は爪車 20 のロック用爪部 20 a と係合してロックされ、入力コード 9 の長さを所望長さでロックすることができる。

【0035】

また本例によれば、耳掛アーム 7 がハウジングから離れたときにラチェット手段の入力コード 9 の巻き取り阻止を解除しないようにしたので、例えばこのイヤホンに耳に掛けているときには不用意な巻き取りが行われず顔や目に傷をつけることはない。

【0036】

また本例によれば、この巻き取り阻止を解除しないようにするのにこのイヤホンに耳に掛けるだけで良く、また巻き取り阻止を解除できるようにするのに耳からはずすだけで良く使い勝手が良い。

【0037】

図 7 及び図 8 は図 6 に示す如き耳掛けタイプのヘッドホンに本発明を適用した例を示す。この図 6、図 7 及び図 8 につき説明するに図 1 ～図 5 に対応する部分には同一符号を付し、その詳細な説明は省略する。

【0038】

図 6 例のヘッドホンは後部ハウジング 2 の上側に軸受部 30 を設け、この軸受部 30 に耳掛アーム 7 の一端に設けた回動軸 31 を貫通する如く装着する。

【0039】

この耳掛アーム 7 は前部ハウジング側即ちイヤパッド 4 側に付勢ばねにより付勢されており、耳に掛けない非使用時は、図 6 A に示す如くこのイヤホンのイヤパッド 4 と耳掛アーム 7 との開きの角度が最小の状態となる。

【0040】

この耳掛アーム 7 を耳に掛けたときは、図 6 B に示す如くこの耳掛けアーム 7 はこの一

端の回動軸 31 を軸として回動し、この耳掛アーム 7 をイヤパッド 4 に対して耳の厚さだけ開いて固定される如くなされている。

【0041】

図 7 例においては、図 1、図 2、図 3 同様に回動アーム 22 の他端の解除片 22b 上に比較的細長の解除規制発条板 24 を設ける。この解除規制発条板 24 は、耳掛レバー 7 の開きに応じて回動する回動軸 31 の端面とこの解除片 22b を挟んだ反対側を固定し、この回動軸 31 の端面側を遊端とする。

【0042】

本例においては、この回動軸 31 の端面に阻止突起 31a を設け、この耳掛レバー 7 の開きの角度が最小の位置では、この解除規制発条板 24 の遊端がこの阻止突起 31a に当接しない如くし、この耳掛レバーが回動し、この阻止突起 31a が回動したときは、この解除規制発条板 24 の遊端がこの阻止突起 31a に当接する如くする。

【0043】

また本例においては、この解除規制発条板 24 上にこの解除規制発条板 24 と関連して押圧可動できる如く解除ボタン 25 を設ける。

【0044】

この場合、耳掛レバー 7 の開きの角度が最小即ち非使用時に解除ボタン 25 を押したときは図 7A に示す如く解除規制発条板 24 の遊端が回動軸の端面の阻止突起 31a に当接しないので、この解除ボタン 25 を押すことができ、この解除ボタン 25 を押すことができたときは、解除片 22b も押され、ラチェット手段の入力コード 9 の巻き取り阻止を解除することができる。

【0045】

また、この耳掛けレバー 7 の開きの角度を最小より大として耳に掛けて使用したとき回動軸 31 が回動して阻止突起 31a も回動し、解除ボタン 25 を押したときは、図 7B に示す如く解除規制発条板 24 の遊端が回動軸 31 の端面の阻止突起 31a に当接するようになり、この解除規制発条板 24 により解除ボタン 25 を押すことができず、ラチェット手段の入力コード 9 の巻き取り阻止を解除することはできない。その他は図 1 例と同様に構成する。

【0046】

従って、この図 7 例においても図 1、図 2、図 3 例と同様の作用効果が得られることは容易に理解できよう。

【0047】

また図 8 例は図 7 例の押しボタンより成る解除ボタン 25 をスライドボタンにより構成した例を示す。

【0048】

図 8 例は図 7 において、解除規制発条板 24、解除ボタン 25 を設けずに、一端にスライドボタン 32 を設けた摺動杆 33 を設ける。この摺動杆 33 は、耳掛レバー 7 の開きに応じて回動する回動軸 31 端面とこの解除片 22b を挟んだ反対側にスライドボタン 32 を有し、このスライドボタン 32 が、この解除片 22b に乗り上げたときに解除片 22b が押され、ラチェット手段の入力コード 9 の巻き取り阻止を解除する如くする。

【0049】

この摺動杆 33 は圧縮コイルばね 34 により付勢され、この摺動杆 33 のスライドボタン 32 側とは反対側の先端部 33a の端面が、回動軸 31 の端面よりスライドボタン側に位置する如くする。

【0050】

また、この摺動杆 33 の先端部 33a の端面を耳掛レバー 7 の開きの角度が最小のときは、この回動軸 31 の端面の阻止突起 31a に当接しない如くし、この耳掛レバー 7 の開きが最小より大となったときは、この先端部 33a の端面が回動軸 31 の阻止突起 31a に当接する如くする。その他は図 7 例と同様に構成する。

【0051】

この場合、耳掛レバー 7 の開きの角度が最小即ち非使用時にスライドボタン 3 2 を矢印 a 方向にスライドしたときには図 8 A に示す如くこの摺動杆 3 3 のスライドボタン 3 2 の反対側の先端部 3 3 a が回転軸 3 1 の阻止突起 3 1 a に当接しないので、このスライドボタン 3 2 を所定位置までスライドすることができ、このスライドボタン 3 2 を解除片 2 2 b 上に乗り上げることができ、このスライドボタン 3 2 を解除片 2 2 b に乗り上げたときは、解除片 2 2 b を押したこととなり、ラチェット手段の入力コード 9 の巻き取り阻止を解除することができる。

【0052】

また、この耳掛レバー 7 の開きの角度を最小より大として耳に掛けて使用したとき回転軸 3 1 が回転して阻止突起 3 1 a も回転し、スライドボタン 3 2 を矢印 a 方向にスライドしようとしたときは、図 8 B に示す如く摺動杆 3 3 の先端部 3 3 a の端面は回転軸 3 1 の端面の阻止突起 3 1 a に当接するようになり、スライドボタン 3 2 により摺動杆 3 3 をスライドすることができず、ラチェット手段の入力コード 9 の巻き取り阻止を解除することはできない。

【0053】

従って、この図 8 例においても、図 1、図 2、図 3 例と同様の作用効果が得られることは容易に理解できよう。

【0054】

尚、上述例では爪車 2 0 のロック用爪部 2 0 a の数を 4 個としたが、これはその他の複數個としても良いことは勿論である。

【0055】

また上述例では、ヘッドホンに本発明を適用した例につき述べたが、ヘッドホンにマイクロホンを設けた所謂ヘッドセットにも本発明を適用できることは勿論である。

【0056】

また本発明は上述例に限ることなく本発明の要旨を逸脱することなく、その他種々の構成が採り得ることは勿論である。

【図面の簡単な説明】

【0057】

【図 1】本発明コード巻き取り装置付きヘッドホンを実施するための最良の形態の例の要部を示す構成図である。

【図 2】図 1 の説明に供する構成図である。

【図 3】図 1 の説明に供する構成図である。

【図 4】ヘッドホンの例を示す外観図である。

【図 5】コード巻き取り装置付きヘッドホンの例を示す断面図である。

【図 6】ヘッドホンの例を示す上面図である。

【図 7】本発明を実施するための最良の形態の他の例を示す構成図である。

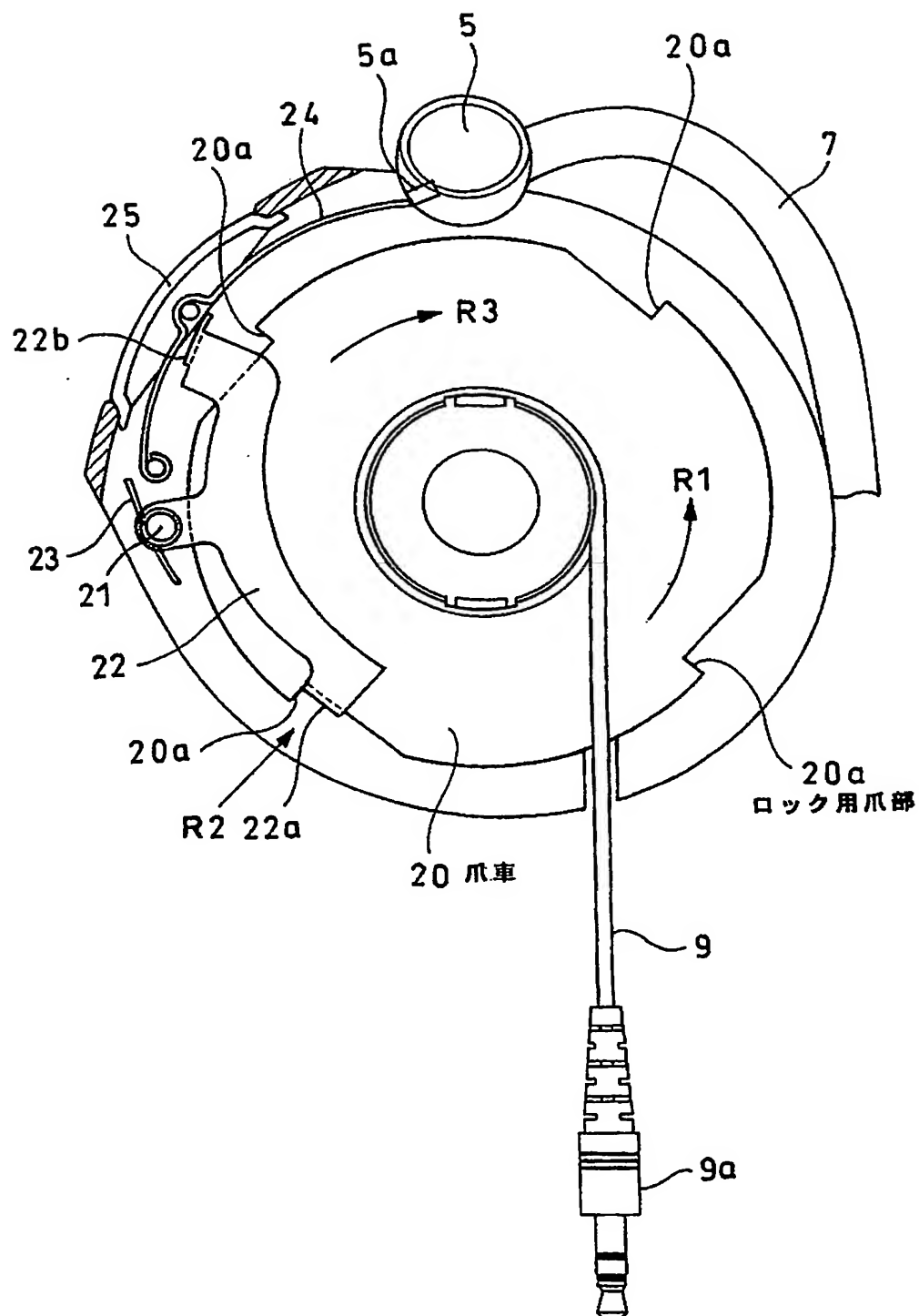
【図 8】本発明を実施するための最良の形態の他の例を示す構成図である。

【符号の説明】

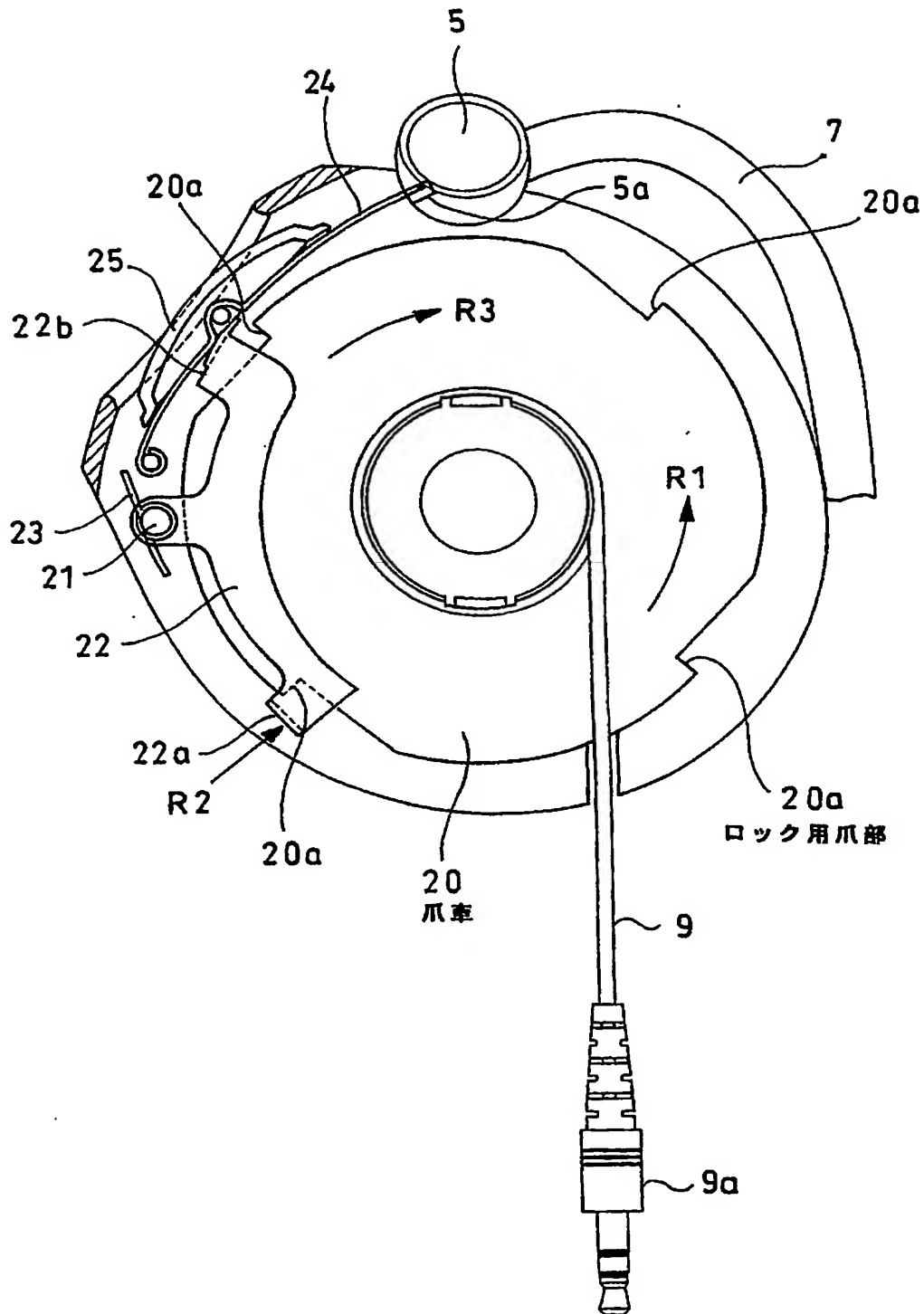
【0058】

1・・・前部ハウジング、2・・・後部ハウジング、5・・・回転円盤、5 a・・・溝、7・・・耳掛アーム、9・・・入力コード、14・・・リール、20・・・爪車、20 a・・・ロック用爪部、21・・・軸、22・・・回転アーム、22 a・・・係合用爪、22 b・・・解除片、24・・・解除規制発条板、25・・・解除ボタン

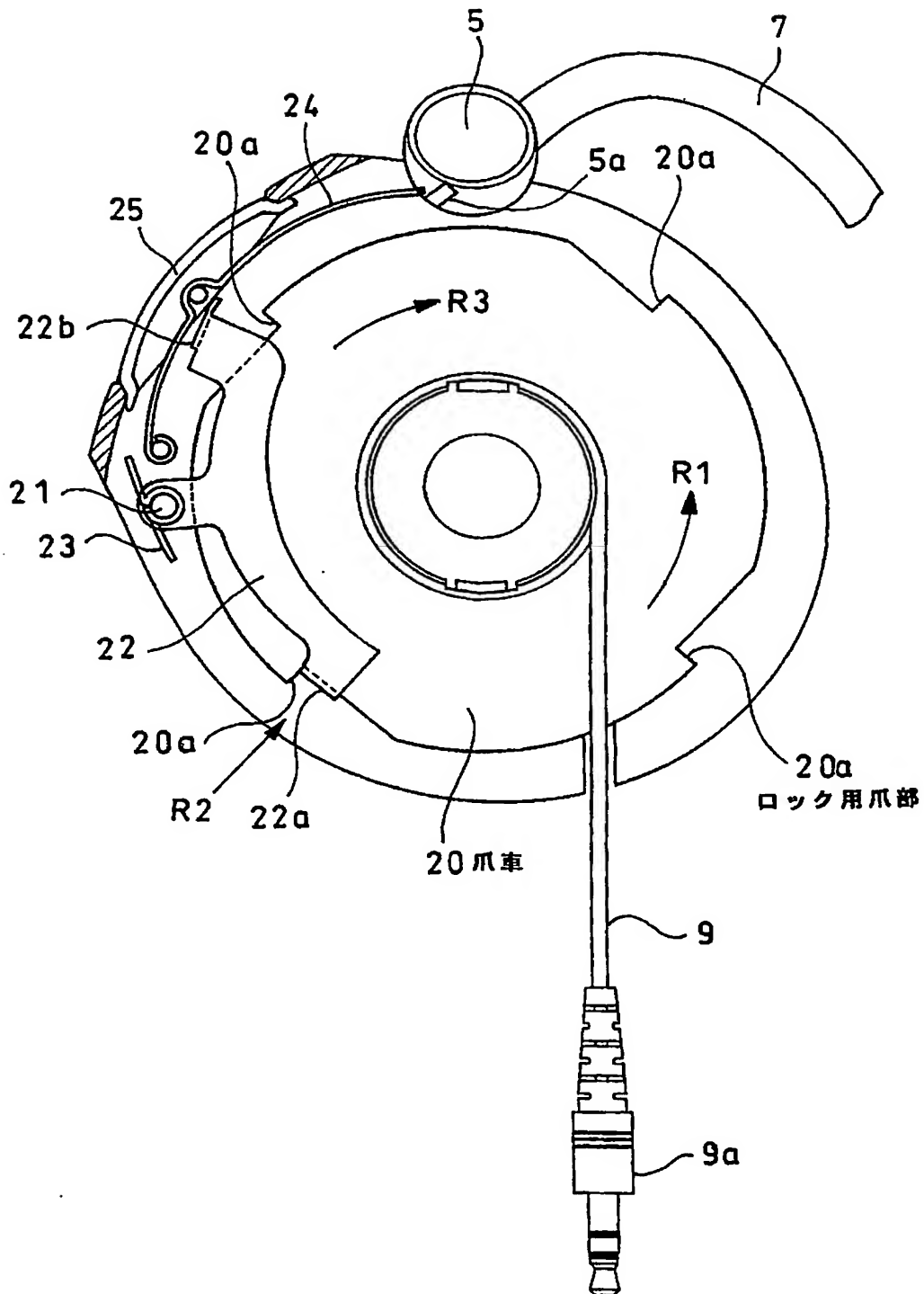
【書類名】 図面
【図 1】



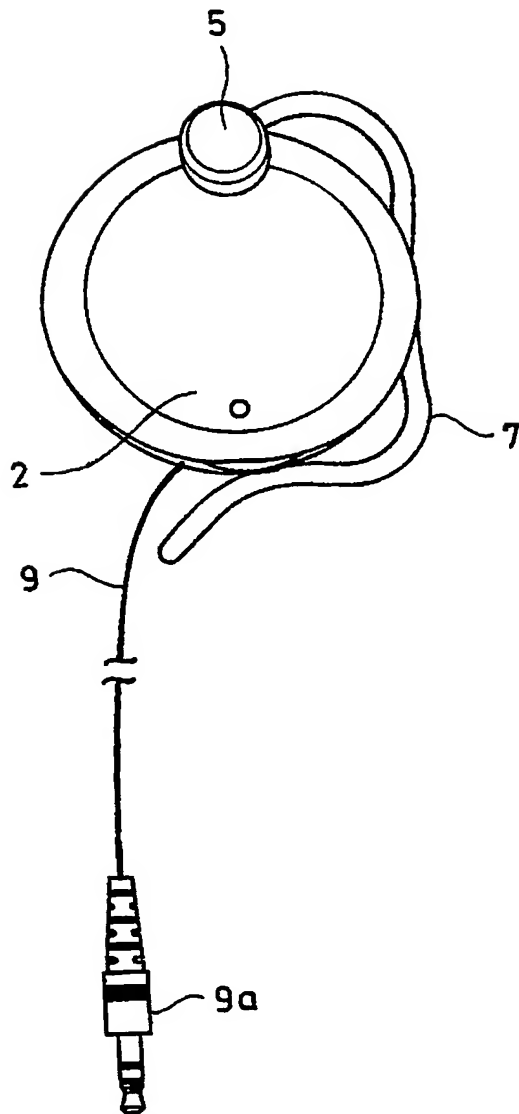
【図 2】



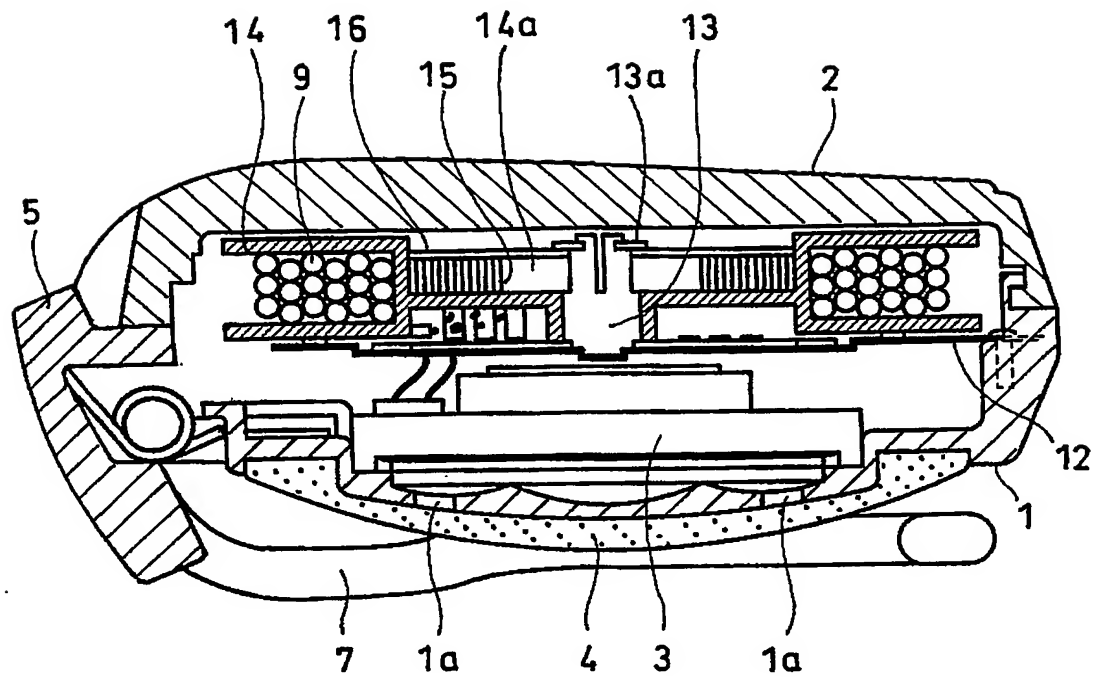
【図 3】



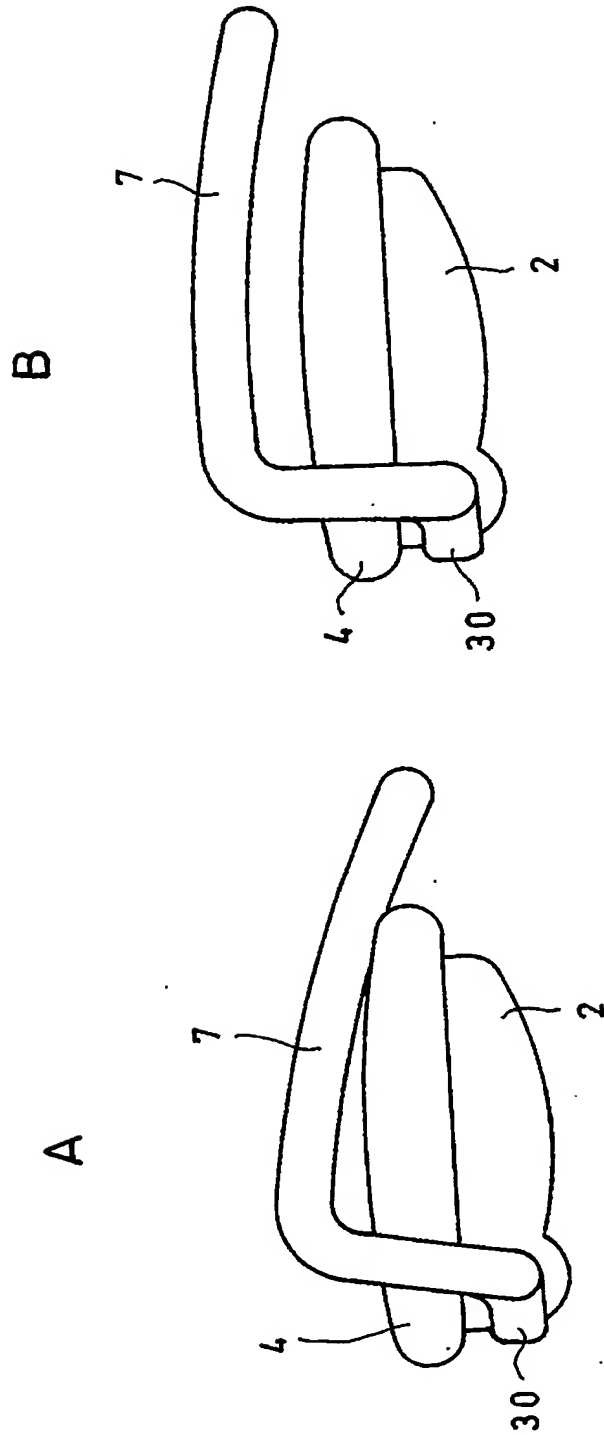
【図 4】



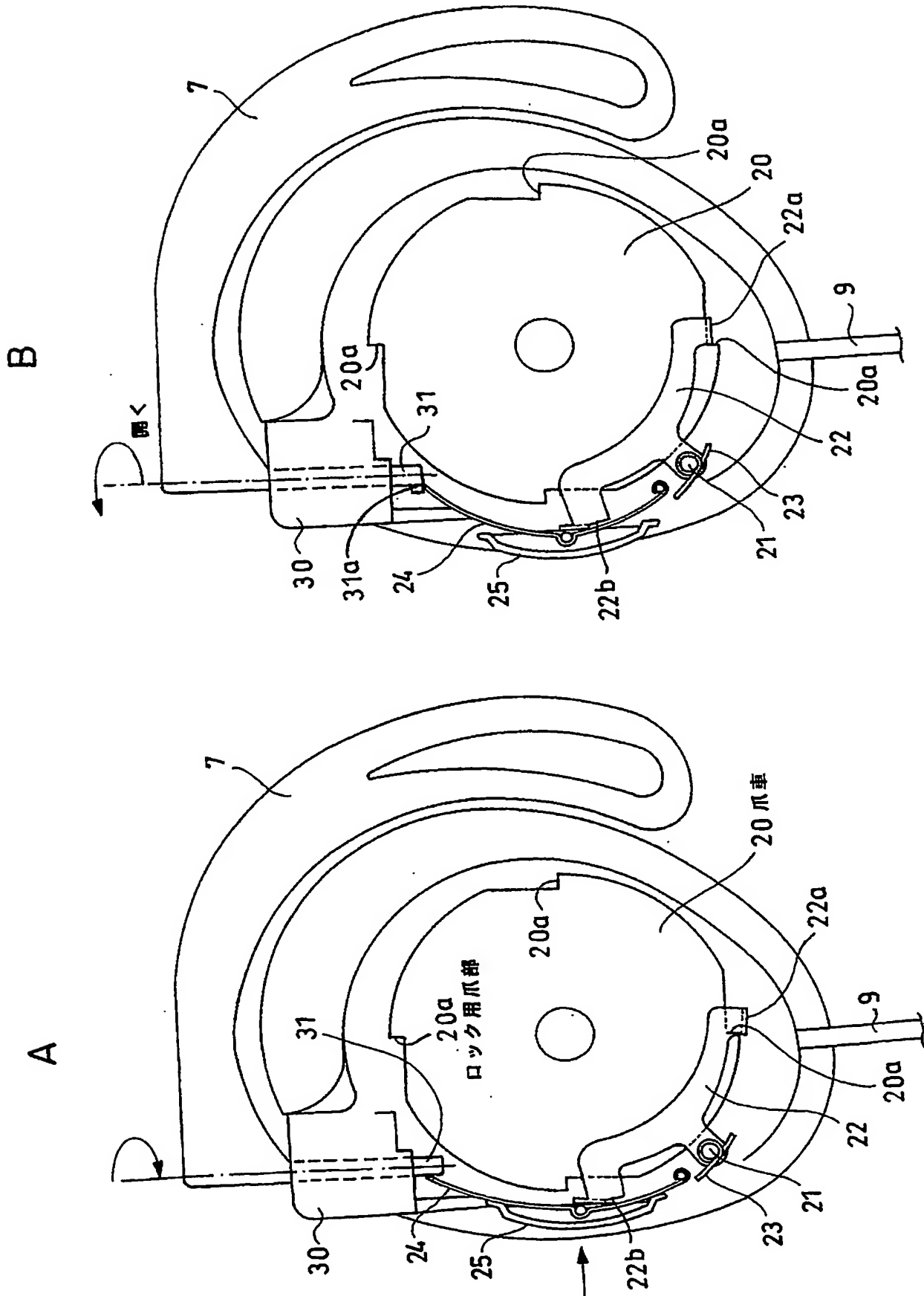
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 煩雑な操作を必要とすることなく、不用意な巻き取りが行われることを防止することを目的とする。

【解決手段】 電気-音響変換素子 3 を内蔵したハウジング 1, 2 と、一端がこの電気-音響変換素子 3 に接続された入力コード 9 と、このハウジング 1, 2 に内蔵されこの入力コード 9 をこのハウジング 1, 2 内部に巻き取るように付勢した巻き取り手段 14, 15 と、この巻き取り手段 14, 15 と連動しこの巻き取り手段 14, 15 のこの入力コード 9 の巻き取りを阻止すると共にこの入力コード 9 のこのハウジング 1, 2 からの引き出しを許容するラチェット手段 20, 20a, 22, 22a と、このラチェット手段 20, 20a, 22, 22a の入力コード 9 の巻き取り阻止を解除する解除手段 22b, 25 と、このハウジング 1, 2 を耳掛けする耳掛アーム 7 がこのハウジング 1, 2 側に付勢された耳掛け手段とを有し、この耳掛アーム 7 がこのハウジング 1, 2 から離れたときに、このラチェット手段 20, 20a, 22, 22a のこの入力コード 9 の巻き取り阻止を解除しないようにしたものである。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2004-131891
受付番号	50400726503
書類名	特許願
担当官	第八担当上席 0097
作成日	平成 16 年 4 月 28 日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	000002185
【住所又は居所】	東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号
【氏名又は名称】	ソニー株式会社

【代理人】

申請人	
【識別番号】	100122884
【住所又は居所】	東京都新宿区西新宿 1 丁目 8 番 1 号 新宿ビル 信友国際特許事務所

【氏名又は名称】	角田 芳末
----------	-------

【選任した代理人】

【識別番号】	100113516
【住所又は居所】	東京都新宿区西新宿 1 丁目 8 番 1 号 新宿ビル
【氏名又は名称】	磯山 弘信

特願 2 0 0 4 - 1 3 1 8 9 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 2 1 8 5]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 3 0 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

氏 名

ソニー株式会社

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/008102

International filing date: 21 April 2005 (21.04.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004/131891
Filing date: 27 April 2004 (27.04.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 20 May 2005 (20.05.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse